

寅さん歩 その 16

お江戸の 時の鐘-2



平野 武宏

お江戸の「時の鐘」はウォーキング例会やイベントでいくつか、訪れていますが、いずれも主役として見ていませんでした。東京都ウォーキング協会で「時の鐘めぐり」が企画されたので、参加しました。今回はその2です。

東京都ウォーキング協会の第二回開催日が未定のため、一人でめぐりました。説明内容は現地の説明板を優先し、図書館で見つけた吉村弘氏著「大江戸 時の鐘音歩記」で一部補足しています。最寄り駅は代表例です。

〔時の鐘の生い立ち〕

現代のような時計など普及していなかった江戸時代、市内の各所には時刻を知らせるための「時の鐘」があったそうです。寛延3年（1750年）の「時の鐘」の調査では10か所が幕府公認のものとあげられています。

時の鐘は寺の勤行の合図の鐘と区別するため、「捨て鐘」といわれる予告を知らせるために、最初に3回つき、続けて時刻の数をつくスタイルがとられたとのこと。（六つ時なら、3打のあと6打）（京阪地区での捨て鐘は1打）

江戸城内で鐘撞役をしていた辻源七が寛永3年（1626年）日本橋本石町3丁目に約200坪の土地を拝領し、鐘撞堂を建て新たに鐘を铸造し、「時の鐘」を知らせる仕事を開始しました。これが江戸で最初の「時の鐘」とされています。鐘の聞こえる範囲の町々からは「鐘役銭」を徴収する権利をもらい、維持費としていたとのこと。

明治時代に「時の鐘」は廃止されましたが、今でも「時の鐘」が聞ける場所があります。該当する鐘をめぐった際に紹介します。

〔四谷天龍寺 時の鐘〕

新宿区新宿 4-3-19 最寄駅 JR新宿駅南口

「新宿バスタ」が出来て、新宿の新しい顔の南口から明治通りを下ると、新宿四丁目の交差点で甲州街道と交わります。
右折してすぐ左側にあるお寺です。
山門(写真下左)脇から入ると正面に本堂(写真下右)があります。



本堂に向かって右奥に鐘楼があります。



説明板には『明和 4 年(1767 年)鑄造された梵鐘で内藤新宿に時刻を告げた「時の鐘」である。元禄 13 年(1700 年)に常陸笠間藩主 牧野備後守貞長により寄進されたもので、現在の鐘は銘文によれば元禄 13 年(1700 年)の初鑄、寛保 2 年(1742 年)の改鑄に続く三代目の鐘であることがわかる。総高 155 センチ、口径 85.5 センチ、多摩郡谷保(現国立市)の鑄物師 関孫兵衛種久の鑄造である。この鐘は内藤新宿で夜通し遊興する人々を追い出す合図として「追い出しの鐘」と呼ばれた。また、この辺りは江戸市中の西の端であり、武士が江戸城に、登城するにも時間がかかるため、明け六つの鐘を少し早く撞いたとも伝わる』と記載。天龍寺を菩提寺にしていた牧野守貞が発起人となり、一般から金銀の寄付を仰ぎ、その金銀を鐘に混ぜて鑄造したため、音の響きがよいとされていた。牧野成貞は浅草寺「時の鐘」にも 200 両の寄進をして鐘に鑄込んだ人で、鐘の音を愛してやまないお殿様です。現在も除夜の鐘は撞かれているとのこと。

牧野成貞は「時の鐘」と共に「やぐら時計」（写真下右）も寄進しています。この時計のもとに鐘を撞いたとのこと。

製作時期は不詳だが、天龍寺に寄進されたのは鐘と同じ明和4年(1767年)と考えられる。当初は和時計であったが、文字盤は明治6年(1873年)の改暦後に24時間制のものに付け替えられたと推定される。文字の中央には牧野家の三つ柏紋が付いており、柏の葉の一端が針になっている。「時の鐘」の説明板の脇に写真と説明板があった。



〔本所横川町 時の鐘〕

墨田区江東橋 1-8 最寄駅 JR総武線 錦糸町駅

「大横川親水河川公園」の大横川テニスコートの近くに「撞木橋跡」があります。「時の鐘」は現存せず、ミニチュアの「時の鐘記念碑」があります。広場は元の大横川で、奥がテニスコートです。



寛永11年(1634年)日光東照宮御霊屋の普請を仰せつかった松平陸奥守(伊達正宗)が「大横川」に材木置き場を造り、多くの職人に時を知らせるため、鐘を鋳造、設置したとのこと。日光東照宮の普請事業が終了してから慶安3年(1650年)頃、中村源兵衛という人が権利を得て、大横川の東方の最上図書助 邸辺りに鐘楼堂を築き「時の鐘」を知らせる事業を始めたとのこと。30年後、鐘が大破し中断、青山久保町居住の勘右衛門と長右衛門の二人が奉行に再建、請負の許可を得、私費で鐘楼を建て、再開したとのこと。

ミニチュアの記念碑には「撞木橋」の由来が書いてありました。

「万治2年(1659年)本所奉行 徳山五兵衛、山崎四郎左衛門により架けられた。ここは「豎川」と「大横川」の「交差辻」で大横川河岸に鐘撞堂があったことから、「北辻橋」の名が「撞木橋」と呼ばれた。

昭和 62 年(1987 年)大横川親水河川整備事業により撤去」と記載。

〔芝切通し 時の鐘〕

港区芝公園 3-1 と虎の門 3-22 の間 最寄駅 三田線 御成門駅

写真下左は芝切通しの現況で東京タワーの脚元にある正則学園(芝公園 3-1)と道路を挟んである白いビル(虎の門 3-22) の辺りに芝切通し「時の鐘」があったとのこと。写真下右は坂を上りきった場所で左の建物が正則学園です。「時の鐘」は**元和 5 年(1619 年) 西久保八幡山**(現在の八幡神社)に建てたとの記録があり、日本橋本石町より 7 年早いことになります。**寛文 10 年(1670 年)** 鐘が破損して、**芝切通しに再建した**とのこと。



〔赤坂田町 時の鐘 円通寺→成満寺〕

港区赤坂 5-2-39 最寄駅 千代田線 赤坂駅

赤坂の地に「時の鐘」が建てられたのは、赤坂の高台にある**円通寺**からとのこと。何時から始められたか定かではありませんが、この寺が建立されたのは寛永 2 年(1625 年)、梵鐘の鑄造年は天和 3 年(1683 年)と絵図に記載されているとのことで、天和 3 年以降と推定されます。その後、元禄 8 年(1695 年) 2 月の大火で焼失、近くの坂上の南側に移転、そこには以前、同名の寺があったといえます。寛延 3 年(1750 年)の「時の鐘」調査では**赤坂 成満寺**とあり、赤坂田町 2 丁目(現在の赤坂見附駅近く)にあった成満寺は**延享 5 年(1748 年) 4 月**に新鐘が造られ、**8 月 28 日 明け六つ**より「時の鐘」が撞き始められています。

その後、天明元年（1781 年）鐘楼堂が大破し、「時の鐘」を休止。
更に享和 3 年（1803 年）類焼を被り、再建はならなかったとのこと。
成満寺は昭和 35 年（1960 年）多摩市連行寺 4-20-2 に移転しています。
鐘は現存しているとのこと。現在も赤坂 T B S の裏には円通寺
坂があり、坂上には「円通寺」があり、鐘楼がありました。



〔下大崎 寿昌寺 時の鐘〕

品川区東五反田 3-8-11 最寄駅 JR 五反田駅

「下大崎」とは今の太田から五反田辺りを指していますが、「寿昌寺」は五反田駅から桜田通りを右側の坂を上り、「雉子神社」の先の 2 本目の道を右折すると正面にあります。

写真下左は入口、右は奥にある本堂で、鐘楼はありません。

創設は寛保 3 年（1743 年）といわれ、大名道中は街道各宿の発着時間が朝七つ（午前 4 時）立ちから、到着時間は夜五つ（午後 8 時）までと、決められていたそうで、ここから東海道品川本陣は約 2km なので、おそらく鐘の音は届いていたと思われます。



「その-1」で紹介した5か所と、今回のここまでの5か所の合計10か所が、寛延3年(1750年)の「時の鐘」調査による幕府公認の「時の鐘」といわれています。更に、「中目黒祐天寺」、「巢鴨子育稲荷」が加わり、幕府公認の「時の鐘」12か所になります。その後、「下大崎寿昌寺」、「中目黒祐天寺」、「巢鴨子育稲荷」が除外され、9か所との説もあります。

〔中目黒祐天寺 時の鐘〕

目黒区中目黒 5-24-53

最寄駅 東急東横線 祐天寺駅

この辺りは府内と府外の境の辺鄙な場所ですが、「目黒不動」があり、参詣者で賑わい、将軍も鷹狩りで訪れ、「目黒のさんま」も食べています。祐天上人は浄土宗の高僧で徳川綱吉、家宣とも関係があり、伝通院や芝増上寺の住持となっています。

「祐天寺」は祐天上人の遺言で建てられました。駒沢通りに面し、表門(写真下左)を入り、仁王門の側に鐘楼があります。

梵鐘と鐘楼は享保13年(1728年)六代将軍家宣の正室(天英院)から家宣17回忌追善に寄進され、10年後の元文3年(1738年)27回忌追福のため「時の鐘」を始める資金を寄進、正式に撞かれ始めたとのこと。この鐘は「時の鐘」、「仏事の鐘」、「天英院の声」、「緊急時の鐘」の役割を果たしていたそうです。

現在も6時とお昼前に撞くと聞き、寅次郎、訪問しました。

11時40分、若い僧侶が縄を持ってきて、鐘木にかけ、撞き始めました。近くで聞く音色は「ガーン」とお腹に響きました。

撞いた僧侶に聞くと「6時と12時前の2回撞く。撞き方は捨て鐘として2回と小さな1回、時刻の12回、後に2回と小さな1回とのこと」。捨て鐘は最初に3回の「江戸のしきたり」とは異なる独特の捨て鐘のスタイルでした。「正午前に撞くのは鐘の音を聞き、家に帰るとお昼(正午)になるように」とのこと。



〔巢鴨子育稲荷 時の鐘〕

文京区千石 4-25-15 最寄駅 J R 巢鴨駅

駅から日本橋方面に向かい、白山通りの右側を歩き、「大鳥神社」の参道入口を右折、右側にあります。稲荷社は貞亨5年(1668年)に祀られ、元禄9年(1699年)靈感院が別当になり、宝永5年(1755年)7月に「時の鐘」が造られ、明治初年まで響き渡ったとのこと。現況は大鳥神社鳥居の脇に小さな社がある普通の稲荷で、「時の鐘」の所在は不明です。



〔こぼれ話-1〕 増上寺の大梵鐘

上野寛永寺に並ぶ、徳川将軍家の菩提寺なので、「時の鐘」ではありませんが将軍御成りの仏事には鳴らされました。鐘の総高 333 cmの大梵鐘です。

「時の鐘」の総高は 120 cmからで、一番大きな浅草寺で 210 cmです。



鐘楼堂前の説明板には『寛永 10 年(1633 年)建立されましたが、焼失、戦後に再建されました。納められている大梵鐘は延宝元年(1673 年)に品川御殿山椎名伊予守吉寛により鑄造されました。徳川四代将軍 家綱公の意向で奥方の「かんざし」まで、寄与され、7 回の鑄造を経て完成したもので、江戸三大名鐘の一つに数えられ、東日本では最大級として知られています。

その大きさは高さ一丈(約 3 メートル)、重さ四千貫(約 15 トン)の大鐘で、その鐘の音は時を告げるだけではなく、煩悩を浄化し、人々の心を深い安らぎへと誘います。江戸時代の川柳には「今鳴るは芝(増上寺)か上野(寛永寺)か浅草(浅草寺)か」、「江戸七分ほどは聞こえる芝の鐘」、「西国の果てまで響く芝の鐘」と詠われ、江戸庶民に親しまれてきました』と記載。

【こぼれ話-2】時の鐘の聞こえる範囲

「大江戸時の鐘 音歩記」の中で著者の吉村弘氏は「時の鐘 音の届く範囲」を予想しています。鐘の音が届く半径 2 ～ 3 キロと予想し、図にしてあり、大変興味がある図なので引用にさせていただきました。



左の予想図は寛延 3 年(1750 年) 時の鐘 調査での 10 か所と中目黒(1738 年設置)、巢鴨(1755 年設置)です。

深川の富岡八幡と牛込の月桂寺は無許可で時の鐘を撞いていたとのこと。

実線によるサークルは聴取料を取っていた範囲。

〔聴取料は大名・武家屋敷は石高、町人からは 1 軒につき毎月 4 文(約 100 円)を徴収、裏長屋の住人はまとめて大家から徴収していたようです〕

点線によるサークルは鐘の大きさからの音の届く推測範囲。

次回は 東京の発祥之地めぐり(学問・文化-5)です。

平野 寅次郎 拝